

みどり  
水土里ネットみやぎ

## 土地改良広報

迎春

特集1

実りの秋・コメ収穫の喜び「大震災からの営農再開状況」

特集2

土地改良広報が創刊第600号!!

2013

1

写真:伊豆沼(宮城県観光課提供)

## トピックス

- P.2 新春挨拶
- P.8 特集1 実りの秋・コメ収穫の喜び「大震災からの営農再開状況」
- P.10 特集2 土地改良広報が創刊第600号!!
- P.11 平成24年度第2回理事会を開催
- P.11 平成25年度農業農村整備事業予算の必要額確保並びに東日本大震災からの再生・復興に関する要請活動の実施(東北・北海道土地連絡協議会)
- P.12 秋の叙勲並びに文化の日表彰の栄に輝く
- P.13 “水土里ネット大倉川”が「平成24年度21世紀土地改良区創造運動大賞」を受賞
- P.14 平成24年産復興米試食会を開催
- P.16 第35回全国土地改良大会 沖縄大会
- P.18 第17回仙台七夕まつり“こどもに夢を”を開催
- P.19 ISO9001:2008更新審査

## 土地改良区めぐり ～シリーズ10～

P.20 階上大谷土地改良区(気仙沼市)

## 事業(制度)紹介

P.22 非補助農業基盤整備資金のご案内

## 農地・水保全管理支払交付金

P.24 上川名地区資源保全隊(柴田町)

## おしらせ

- P.25 連合会日誌
- P.25 今後の行事予定
- P.26 みやぎの中山間地写真コンクール開催のご案内
- P.27 環境カルタの貸し出しのご案内



## 新年の御挨拶



宮城県土地改良事業団体連合会  
(水土里ネットみやぎ)

会長 伊藤 康 志

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

昨年中は本会の業務運営につきまして、皆様方の格別のご支援とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

東日本大震災は、未曾有の大災害でありましたが、宮城県では一刻も早い復旧・復興を推進するため、平成23年10月に今後10年間の復興の道筋を示す「宮城県震災復興計画」を策定し、平成32年度を復興達成の目標年度と定め、そのうち復旧可能な農地の整備、農業用施設の復旧に関しては平成25年度までに復旧を終える予定としているところであり、本会と致しましても被災地の早期復興・農地再生への実現に向けて、その下支えを担っている状況であります。

また、昨年は7月中旬から9月上旬にかけての猛暑と異常な渇水状況により、農作物への影響が心配されましたが、農家の皆さんや国・県・市町村・水土里ネットの懸命の努力により、作況指数105の「やや良」の作柄となりました。これは水や土地改良施設を地域の「共有財産」として、「地域連携」のもとに有効活用できた結果であり、まさに農業農村整備事業の成果そのものであったと思います。

しかしながら、我が国の農業・農村を取り巻く情勢は厳しい状況に直面いたしており、所得の減少、担い手不足の深刻化、高齢化の進行、農村の活力低下といった解決の糸口がなかなか見いだせない難題が山積しております。

一方、震災を機に、自立・分散型エネルギーシステムの重要性が認識され、農業用水を活用した小水力発電、農地としての再利用が困難な耕作放棄地等を活用した太陽光発電、風力発電など、農村における地域資源の潜在力を活かした再生可能エネルギーへの期待が大きくなっています。これら再生可能エネルギーの生産及び利用を図ることは、水土里ネットの維持管理費の低減につながることから、今後更に国・県との情報交換を密にしながら推進していかなければなりません。もとよりこれら再生可能エネルギーをはじめとする農業・農村のもつ多面的機能は、国民にとって大変重要なものでありますが、凶らずも大震災、あるいは、原子力発電所事故により国民全体の期待となり、農業農村整備事業への社会的要請の高まりとなっているところです。

このような中、国においては平成24年3月に新たな「土地改良長期計画」を1年前倒しで策定し、「食を支える水と土の再生・創造」を基本理念に、農を「強くする」・国土を「守る」・地域を「育む」の3つを政策課題に掲げました。

これら土地改良長期計画の実現には、汎用水田の整備をはじめ、農業水利施設の良好な保全管理、活力ある地域づくりに向けた、農業農村整備事業の計画的かつ着実な推進が不可欠であります。農業者や地域・国民の理解と協力のもと、国・県・市町村等との連携を一層強化し、これまでに蓄積された技術力と組織の総合力を発揮して、役職員並びに水土里ネットが一丸となり取り組んでいかなければならないと決意を強くしております。

今、水土里ネット組織は農業農村整備事業予算の減少と、この大震災を受け、試練の時を迎えております。東日本大震災からの早期復旧・復興を当面の最優先課題として取り組みながら、本県の農業・農村が今後とも我が国の主要な食料基地として在り続けられるよう、組織の総力を結集して各種事業の推進と、必要な予算確保を図る活動、このための21世紀土地改良区創造運動等を一層強力に推進して参る所存であります。

この歴史的な未曾有の国難を克服し、先人たちの英知により守り育ててきた「水・土・里」を子々孫々の生存基盤として未来に引き継ぎ、農や地域の一日も早い復旧・復興の実現により強固な土台の役割を担って参りますので、関係する皆様方の一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

おわりに、本年が会員並びに関係する皆様にとりまして平穏な佳き年となりますよう、さらにまたご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。新年の挨拶と致します。



## 復興に向けて発展の「種」をまく年に



宮城県知事 村 井 嘉 浩

宮城県内に未曾有の被害をもたらした平成23年3月11日の東日本大震災から1年9か月余りが経過しました。この間、被災地の復旧・復興に向けて、全国の皆さまからの御支援と御協力の下、県民一丸となって最大限の力を注いでまいりました。

県では、平成24年を宮城県の新たな歴史を刻むスタートの年として「復興元年」と位置付け、「宮城県震災復興計画」（平成23年10月策定）を着実に実施し進行管理を行うため、「宮城の将来ビジョン・震災復興実施計画」を3月に策定しました。

この計画に基づき、河川や道路、漁港、港湾など公共施設や農業施設の本復旧工事、新たなまちづくりのための区画整理事業が開始されるなど、復旧・復興に向けた取組を本格化させたところです。

また、10月には震災後初の全国規模のイベントである「ねんりんピック宮城・仙台2012」を開催し、全国から多くの方々に本県を訪れていただくことができました。

「宮城県震災復興計画」では、復興達成の日標年度を平成32年度と定め、今後10年間の復興の道筋を示しています。今年は、被災者支援を中心に生活基盤や公共施設を復旧させる「復旧期」の最終年に当たります。特に被害の大きかった沿岸部を中心とする被災地においては、生活再建や地域経済の建て直しなどの課題が山積し、いまだ厳しい状況にあるため、被災市町と一体となって、一層のスピード感を持って、復興事業を推進していかなければなりません。

そのため、昨年に引き続き「宮城県震災復興計画」に掲げる分野別の7つの政策を主要政策と位置付け、重点的に推進することによって、県民の皆さまが復興の歩みを実感できるよう、引き続きしっかりと取り組んでまいります。

具体的には、農林水産業の早期復興を目指し、生産基盤の一層の復旧に努めるとともに、担い手の確保・育成対策や新しい経営形態の導入などに積極的に取り組み、安全・安心な農林水産物の供給体制を整備してまいります。

農業農村整備部門においては、早期の営農再開に向けた災害復旧の実施はもとより、津波被害が著しい未整備の農地を中心に、大区画化ほ場整備を通じた農地の面的な集約や経営の大規模化等による競争力のある経営体を育成するとともに、可能な限り市町の復興計画実現に向け、土地利用の整序化を目的とした農地整備を進めていくなど、震災の前以上に本県の農業・農村が振興していると実感できるよう、農村振興・農村整備関係施策を一層推進してまいります。

また、東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故による様々な影響について、不安解消や風評払拭に取り組むとともに、事業者などの損害賠償への支援を行ってまいります。

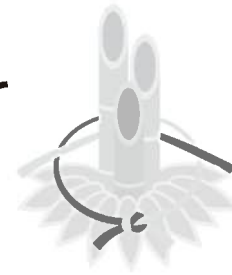
さて、「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」が4月から6月に開催されます。震災発生からこれまでの間に賜りましたたくさんの支援に対する感謝の気持ちを込めて、全国からのお客様を温かくお迎えしましょう。私も、笑顔でおもてなしたいと考えています。

県政における最優先課題は、震災からの一日も早い復興です。今年は「宮城県震災復興計画」に掲げる「再生期（平成26年度～29年度）」を視野に入れ、発展の「種」をまくことができるよう、復興に向けた取組を加速させてまいります。

復旧・復興への道のは長く険しいものですが、10年をかけて震災前の状態に戻す「復旧」ととどまらず、将来の県民生活を見据えた抜本的な再構築による「ふるさと宮城の再生とさらなる発展」を目指して、積極果敢にチャレンジしてまいります。明るい未来を目指しながら、県民の皆さんと手をつなぎ一緒に進んでまいりたいと考えておりますので、一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。



## 新年を迎えるにあたって



宮城県議会議長 中 村 功

新年あけましておめでとうございます。皆様には、輝かしい新年を健やかに迎えのこととお喜び申し上げます。

平成24年は、復興元年（復興頑念）であり、復旧・復興に向けて様々な取組が本格的に動き出した、本県の将来にとって、とても大切な1年であったと感じています。宮城県議会といたしましては、震災瓦礫を1日も早く処理することが復興に向けて大変重要であることから、年が明けて早々に、北海道を含めて16都道府県議会に対しまして、広域処理のお願いをいたしました。また、宮城県震災復興計画の取組に関する各種事業の予算をスピーディーに可決したほか、市町村や住民の方々の御意見と御要望を踏まえまして、政府、各省庁並びに政党等に対して、様々な要望活動を行ってまいりました。それと同時に、多くの課題にも直面しましたが、県議会が一致団結し、さらには、市町村議会との連携にも意を用いながら全力で走ってきた1年でありました。

また、昨年元日の新年祝賀の儀にお招きをいただき、皇居におきまして天皇皇后両陛下にお日にかかることが叶いました。そして5月には、2年続けて御来県をいただきました。多くの県民の皆様が御奉迎を申し上げ、両陛下には和やかにお手を振ってお応えいただきまして、県民の皆様と共に心しみ、心から感謝申し上げます。10月のねりんピック宮城・仙台2012には常陸宮同妃両殿下に、11月の日本赤十字社宮城県支部創立125周年記念大会には秋篠宮妃殿下に御来県をいただきまして、たくさんのお心温まるおことばをいただきました。

さて、平成25年は、復興計画における復旧期最後の年であり、来年26年からの再生期、そして30年からの発展期に繋げるとても大切な1年です。被災された方々への生活支援や公営住宅等の整備、災害廃棄物処理の早期完了、沿岸部における早期の事業再開や安定した雇用機会の創出、生産基盤のさらなる復旧による農林水産業の早期復興と安全で安心な農林水産物の供給体制の整備、公共土木施設の早期復旧と沿岸地域の復興まちづくり、被災医療機関の再整備や社会福祉施設の復旧等々、ふるさと宮城が再生するためになすべきことがこれまで以上にある年です。

これらを成し遂げるためには、復旧から復興に向けて知恵を絞り、どう行動するのが問われる1年になります。未曾有の事態ですから、柔軟に対応できるような制度改正にも取り組み、1日も早く復興の形が見えるようにしていきたいと思っています。

本年も、宮城県民の代表として地域の声に耳を傾け、県民の信頼と期待に応えられる議会活動に全力で取り組んでまいりますので、引き続き、御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

皆様方の御健勝と御多幸をお祈り申し上げまして、年頭の御挨拶とさせていただきます。



## 新年の御挨拶



東北農政局長 五十嵐 太乙

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

平素より農政並びに農業農村整備事業の推進につきまして、多大なる御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

東日本大震災から、早や1年9ヶ月の月日が経過いたしました。被災された方々には、心からお見舞いを申し上げます。

さて、東北の農業は、地域経済の中で重要な地位を占めるとともに、消費者の皆様への安全な食料の安定供給や多面的機能の発揮といった国民生活に重要な役割を担っています。

一方で、所得の減少、担い手不足の深刻化や高齢化、農山漁村の活力低下といった厳しい状況にも直面しています。

このような中、地域資源を活用し、高付加価値化を進め、所得を増大させるとともに、意欲ある若者などが安心して農林漁業に参入し、継続して従事できる環境を整備するなど、体質強化に取り組むこととしています。

特に、東北地方の農業生産基盤は、水田を中心に形成され、我が国の主要な「食料基地」として重要な役割を担っており、その持てる力を十分に発揮するため、地域資源の有効活用による取組を推進し、農業農村の再生に結びつけることが重要と考えています。

このため、まず第一に、東日本大震災からの本格的な復旧・復興をさらに強力に推し進めたいと考えています。

東日本大震災からの復旧・復興については、これまでの復旧工事等により、東北農政局管内の津波被災農地の約二万六千ヘクタールのうち約7,400ヘクタール（約36パーセント）で営農再開が可能となっています。被災地の方々の「一刻も早く復旧・復興をしてほしい」というお気持ちにお応えすべく、引き続き全力で取り組んでまいります。

また、今回の原発事故により汚染された農地については、「農地除染対策の技術書」がとりまとめられたところであり、引き続き関係省庁と連携しながら対応してまいりたいと考えています。

次に、我が国の農業と農村の再生を促進する観点から、地域農業の担い手の育成・確保等による新規就農の増大と農地集積の推進及び再生可能エネルギーの導入促進などの施策を強力に展開することとしております。

これらに加え、農地の大区画化等の農業生産基盤の整備等を推進し、持続可能な力強い農業を実現したいと考えています。

また、水田農業を中心に農業を営んできた我が国にとって、安定的な農業用水の確保なしには農業の持続的発展は考えられません。さらに、農村地域の豊かな資源を活用した小水力、太陽光の活用は、地球温暖化防止対策に加えて、土地改良区の維持管理費軽減の観点からも重要な取組みと考えています。この資源を積極的に活用することが、農村地域の発展に大きく寄与するものと考えています。

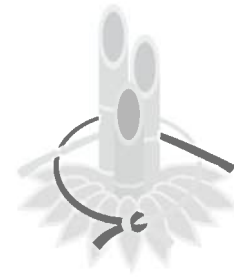
安全・安心な食料を安定的に国民に提供するとともに、農業・農村の持続的発展を実現するため、今後とも、食料・農業・農村施策の基礎となる農地・水資源の的確・適切な整備等に努めていきたいと考えております。

復興は、未だ道半ばで課題も多くありますが、東北農政局として、被災した農業、農村の復旧・復興に今後とも組織をあげて取り組んでまいり所存でございます。

また、東北地域の農業の発展、地域の振興を図るため、いわゆる「現場主義」の視点に立ち、地域の実情に十分配慮し、これらの課題に対して一歩ずつ着実に成果を上げるよう全力を挙げて取り組む所存ですので、本年も皆様の御支援と御協力をよろしく御願い申し上げます。



## 新年に当たって



みどり  
全国水土里ネット

会長 野中 広務

平成25年の年頭に当たり、全国の農業農村整備事業の推進に御尽力いただいております皆様、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

農業・農村は、国の大本であり、日本の豊かな国土や自然環境も、農業・農村が健全であって初めて維持されるものであります。このため、先人達は農業・農村が健全に発展していくために、農地や農業用水などの維持、向上に向け、献身的な努力を続けてきました。

しかしながら、東日本における最大規模の地震や津波、原子力発電所事故や台風等による集中豪雨は、先人達の努力の結晶を破壊し、これらの地域の農業・農村に大きな爪痕を残しました。現地では、一刻も早い復旧、復興に向け、更なる国の力強い支援を強く望んでいます。また、原子力発電所事故を受け、再生可能エネルギーへの国民の関心が高まり、農村の土地・水資源を活用した小水力発電等への期待が大きくなっているところです。

一方、全国の農業・農村においては、過疎化、高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しています。特に農業水利施設の老朽化は、食料生産の増大、転作作物への転換に影響を及ぼし、食料自給率の向上に支障を来すばかりでなく、農村地域の災害の増加をもたらすのではないかと大変危惧しております。

さらには、環太平洋経済連携協定（TPP）交渉について、交渉参加国間で本年中の交渉妥結を目指すことが確認されたことを踏まえ、我が国がTPP交渉に参加するの可否か判断を迫られるものと想定されます。


こうした状況の中、昨年12月に衆議院議員総選挙が行われ、3年3ヶ月振りに政権が交代することとなりました。新政権においては、我が国の美しい、伝統ある農業・農村を守り、発展させていく施策を推進していくことを大いに期待するところです。今こそ、日本の食と農を守るための実効ある対策を、政府に求めてゆくべき時ではないかと思えます。

一方、我々水土里ネット関係者も新政権に期待するだけでなく、水土里ネットの役割や農業・農村を守り、発展させていくことの重要性・必要性について、広く国民の皆様にはアピールし、共感を得ていく努力が必要です。幸いにして、農地を集積し、経営規模を拡大することにより、新たな農業経営を展開すべく、全国各地で高い志を有し、地域農業を主導する若い人たちの取り組みも見られるようになってきております。地域の農業や農業情勢が大きく変貌してゆく中、「水」「土」「里」を担う中核的な存在である水土里ネットが、長年培ってきたノウハウを最大限活用し、新たな地域農業を切り開き、国民の財産である農業・農村を守り、発展させていくことが重要であります。そのことによって、水土里ネットと農業・農村に対する国民の皆様の幅広い共感が得られ、施策が安定的に実行されることを強く期待するところであります。

新しく輝かしい年の出発に当たり、私も皆様方とともに、全国の仲間とともに活動して参りますことを、身の引き締まる思いとともにここに改めてお誓い申し上げたいと存じます。

本年が全国の皆様にとって良き年でありますように、御健勝と御発展を祈念いたしまして、私の新年の御挨拶と致します。

# 謹んで新年のご挨拶を申し上げます

 **みどり  
水土里ネットみやぎ**  
(宮城県土地改良事業団体連合会)



会 長 伊藤 康志  
(大崎市長)



副会長 千葉 仁一  
(北上川沿岸中田地区土地改良区理事長)



副会長 三品 幸徳  
(亘理土地改良区理事長)



専務理事 高橋 清隆  
(学識経験者)



理 事 加藤 徹  
(宮城大学・教授)



理 事 大沼 喜昭  
(柴田町土地改良区理事長)



理 事 亀谷 久雄  
(角田隈東土地改良区理事長)



理 事 佐々木一十郎  
(名取市長)



理 事 加藤 孝志  
(加美郡西部土地改良区理事長)



理 事 高橋 義矩  
(迫川上流土地改良区理事長)



理 事 上野 智通  
(迫川沿岸土地改良区理事長)



理 事 佐藤 勝也  
(河南矢本土改良区理事長)



総括監事 小野寺 衛  
(涌谷町土地改良区理事長)



監 事 大和田清一  
(大和町土地改良区理事長)



監 事 三浦 敏壽  
(石巻市稲井土地改良区理事長)

外職員一同

# 特集1

## ～実りの秋・コメ収穫の喜び「大震災からの営農再開状況」～

東日本大震災から1年半余りが経過し、被災地では「実りの秋」を向かえました。  
 田んぼは、黄金色の稲穂が揺れ収穫の真っ最中!!  
 今回の特集については、前号(第599号)で掲載した「田植え」に引き続き、「稲刈り」・「収穫」について、亘理土地改良区並びに名取土地改良区管内の耕作者及び営農団体へ、収穫について取材を行いました。



亘理土地改良区(亘理町)



2011.03撮影【震災直後】



2012.04撮影【代掻き除塩】



2012.05撮影【田植え】



2012.07撮影【田植え後】



2012.09.27撮影【稲刈り前】



2012.10.08撮影【稲刈り】

### 収穫の喜びについて

- Q1：震災を乗り越え初めての収穫について、今の思いは？  
**A1**：自分の水田で作付けし、自分で収穫した米を食べることが大変幸せです。  
 Q2：稲刈りで苦労した点は？  
**A2**：コンバインの納品やライスセンターの建設が遅れたため、刈り取り作業が遅れたことです。  
 Q3：来年の作付けに向けての課題や要望などは？  
**A3**：地区内の担い手が減少してしまったことで、請負の負担が増すことや耕作放棄地が増加するのではないかと不安です。

そのためにも、ほ場整備による早期復興を実現していただきたい。

- ◇H24年度米の収穫量：震災前の80%
- ◇作付けした米の品種：ひとめぼれ、みやこがね



撮影協力：亘理土地改良区



名取土地改良区(名取市)



2011.03撮影【震災直後】



2012.04撮影【代掻き除塩】



2012.05撮影【田植え】



2012.07撮影【田植え後】



2012.09撮影【稲刈り前】



2012.09.27撮影【稲刈り】

収穫の喜びについて

Q1：震災を乗り越え初めての収穫について、今の思いは？

A1：震災直後のガレキやヘドロ等が散在する中、本当に作付けできるだろうか？と思った不安な日々や、ガレキ撤去から始まり除塩や代掻き・田植え作業などが目に浮かびます。やっと収穫を迎え、実に感慨深いものがあります。

Q2：稲刈りで苦労した点は？

A2：9月中旬は天候に恵まれたが、下旬以降は降雨の影響により作業が遅れ、一部倒伏と穂発芽があったことです。

Q3：来年の作付けに向けての課題や要望などは？

A3：全体の1/3は未だ復旧していない状況なので、早期大区画ほ場整備による全面復興をお願いします。

◇H24年度米の収穫量：震災前の67%

◇作付けした米の品種：ひとめぼれ、まなむすめ、ササニシキ、みやこがね



撮影協力：(有) 耕谷アグリサービス

【特集記事】平成24年度の土地改良広報(第598号～第600号)につきましては、「東日本大震災からの営農再開状況」をテーマに特集記事を掲載してきました。来年度も引き続き、震災関係の特集を掲載してまいります。

# 特集2 ～土地改良広報が創刊第600号!!～

本会で発行している土地改良広報は、会員サービスの向上と本会業務運営の発展に資するため、昭和33年8月に第1号を創刊し、以来、平成25年1月で記念すべき第600号の発行となった。

以前は、本会唯一の広報機関誌として、各種情報提供の役割を担ってきたが、インターネットの普及により平成13年よりホームページを開設するに至り、現在では、土地改良広報とホームページにより情報提供を行っている。



(第1号～第266号)



(第267号～第443号)



(第444号～第563号)

**【これまでの土地改良広報紙の歴史】**

- 第001号 昭和33年08月(毎月1回発行)B5版
- 第100号 昭和42年08月(毎月1回発行)B5版
- 第200号 昭和50年12月(毎月1回発行)B5版
- 第300号 昭和59年04月(毎月1回発行)B5版
- 第400号 平成04年08月(毎月1回発行)B5版
- 第500号 平成12年12月(毎月1回発行)A4版
- 第600号 平成25年01月(年3回発行)A4版

※これまで5回のデザイン変更を行っている。



(第600号)今回創刊  
平成25年1月発行



(第598号)  
平成24年4月発行



(第564号～第587号)



(第588号～第597号)

## 平成24年度第2回理事会を開催

本会では去る10月4日(木)、平成24年度第2回理事会を開催し、平成24年度一般会計収支補正予算の専決処分について他の審議を行った。

当日は伊藤会長はじめ理事12名、監事3名及び参与の宮城県農林水産部日置次長の臨席により開催された。

はじめに伊藤会長並びに日置参与から挨拶後、定款第25条第3項の規定により伊藤会長が議長となり議事に入った。

議事は1案件のみ上程し、事務局から詳細な内容説明等を行い、原案通り承認可決された。

議事終了後、高橋専務理事から

- ①県・文化の日表彰について ②本会会員関係について
  - ③21世紀土地改良区創造運動東北地区大賞について
  - ④平成25年度概算要求(農林水産関係)の概要について等々報告があり、理事会を終了した。
- 理事会終了後、各役員で本会の今後のあり方について意見交換を行い、盛会裏の内終了した。  
理事会提出議案は次のとおり

第1号議案 平成24年度一般会計収入支出補正予算の専決処分について

## 平成25年度農業農村整備事業予算の必要額確保 並びに東日本大震災からの再生・復興に関する 要請活動の実施

～東北・北海道土地連絡協議会～

去る11月30日(金)、東北・北海道土地連絡協議会による要請活動を実施した。

当日は会員各県の会長、副会長、専務理事などが農林水産省及び復興庁に出向き、農業農村整備事業予算の必要額の確保並びに東日本大震災からの再生・復興に関して要請を行った。また、各県選出国會議員に対しても各県ごとに同様の内容について要請を行った。

要請内容については次のとおり。

### 《農業農村整備事業等関係》

- 1.農業の体質強化のための基盤整備予算の確保
- 2.再生可能エネルギーの加速的な推進
- 3.老朽化した農業水利施設の防災・減災対策
- 4.水土里情報の活用拡大を図る支援措置
- 5.「地域自主戦略交付金」並びに「農山漁村地域整備交付金」の交付額の増額
- 6.環太平洋経済連携協定(TPP)参加反対

### 《東日本大震災関係》

- 1.被災地の農業施策の着実な推進
- 2.除染と一体となった農業農村整備事業の実施
- 3.震災対策農業水利施設整備事業の予算確保
- 4.被災土地改良区復興支援事業の拡充
- 5.農家負担金の助成制度の拡充と創設
- 6.東日本大震災復興交付金の拡充

**SEKISUI** 地震対策には

**エスロンプラスチック リンパイプ**

日本下水道協会規格 JSWAS K-13-2003

液状化対策 国交省指針の  
砕石基礎に最適です!



砕石基礎が  
管に作用する力を  
消散!

**特長**

- 砕石基礎による耐震ライン
- 軽量かつ高い剛性
- コスト削減に貢献

好評  
発売中!

**エスロンタイムズ on the Web**  
<http://www.eslontimes.com>

積水化学工業株式会社 環境・ライフラインカンパニー 東北官需営業所  
〒984-0051 宮城県仙台市若林区新寺1-4-5(ノースピアビル) TEL. 022(298)6043

## ～平成24年 秋の叙勲～

去る11月3日付で、内閣府から平成24年秋の叙勲受章者が発表され、本会関係者では、我妻 昭一氏（元黒沢尻用水路土地改良区理事長）が土地改良事業功労・地方自治功労により旭日双光章、上野 智通氏（迫川沿岸土地改良区理事長）が土地改良事業功労により旭日双光章、鹿島 茂氏（蔵王町土地改良区理事長）が地方自治功労により旭日双光章を受章されました。



このたびの受章を心からお慶び申し上げ、益々のご活躍を祈念申し上げます。



我妻昭一氏(78歳)が平成24年12月5日午後8時58分永眠致しました。ここに謹んで元理事長のご冥福をお祈り申し上げます。



## ～平成24年 文化の日表彰～

宮城県は平成24年文化の日表彰受賞者を発表し、本会関係者では産業功労として、佐藤 洋治氏（柴田郡村田町外一町澄川土地改良区理事長）、氏家 敏氏（江合川沿岸土地改良区理事長）、佐々木 禧市氏（登米吉田土地改良区理事長）が受賞されました。



このたびの受賞を心からお慶び申し上げ、益々のご活躍を祈念申し上げます。





去る12月11日(火)、東京都(砂防会館別館3F六甲)において、平成24年度21世紀土地改良区創造運動大賞中央選考委員会が開催された。

21世紀土地改良区創造運動は、平成13年度から取り組みがはじまり、これまで全国で多様な取り組みが展開されるとともに、愛称の普及も順調に且つ着実に浸透してきている。

本年度は東北ブロックから、平成24年8月20日に開催された、東北地方選考委員会の結果、本県の水土里ネット大倉川と福島県の水土里ネット矢吹原が東北代表として参加し、全国の各ブロックから集まった12の水土里ネットと大賞を競った。



【中央選考委員会の様子】



【水土里ネット大倉川のプレゼンテーション】

その結果、本県の水土里ネット大倉川は、きわめて小さい水土里ネットであるにもかかわらず、農地・水の活動組織や小学校・一般住民等からの様々な協力を得ながら、身の丈に合った活動を10年以上展開し、それまで農家と非農家と一緒に何かを行うことが無かった地域でこれらの活動によって新しいコミュニケーションの場を創造できた意義を、審査員から高く評価され、「21世紀土地改良区創造運動大賞」を受賞した。



【中央選考委員会で発表したスライド】



【外部運動（田植え・稲刈り）】

## 平成24年産復興米試食会を開催



去る11月27日(火)、宮城県土地改良会館において、水土里ネットみやぎ主催による「平成24年産復興米試食会」が開催され、東北農政局長、宮城県知事、県内土地改良区理事長など関係者約50名が参加した。

この復興米試食会は、東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県沿岸部の農地の復旧・復興を広くPRするため、除塩した田んぼで今年収穫された新米による試食会を行ったものである。

始めに水土里ネットみやぎ伊藤会長より、「津波被害で沿岸部は作付け自体が危ぶまれたが、一日も早い完全復興を成し遂げ、安心安全なお米の供給につなげていきたい」と挨拶を申し上げ、

次に、東北農政局五十嵐局長並びに宮城県村井知事より祝辞を頂き、被災した土地改良区を代表して、亘理土地改良区三品理事長、名取土地改良区松浦理事長、石巻市蛇田土地改良区千葉理事長の3名が感謝と御礼の挨拶を行った。また、大崎土地改良区菅原理事長より異常湧水を乗り越え収穫されたことについて、東北農政局と宮城県に対し感謝のことばが述べられた。

試食会では、4つの地域のお米(亘理土地改良区・名取土地改良区・石巻市蛇田土地改良区(ひとめぼれ)大崎土地改良区(ササニシキ)を介当として、また河南矢本土地改良区より提供されたお米をおにぎりとして振る舞った。

試食した関係者は、「とても美味しいです。津波の被害からここまで復旧・復興し、収穫できた喜びと食べることができた事への感謝の気持ちでいっぱいです。」と思いを語った。

最後に、水土里ネットみやぎ千葉副会長から閉会のあいさつを頂き、復興米試食会の一切を終了した。



【復興米試食会の様子】



【試食会で提供されたお弁当】



【水土里ネットみやぎ伊藤会長の開会あいさつ】



【おにぎりをほおぼる伊藤会長・村井宮城県知事】

## 本会会員代表者の就退任関係

■ 大河原支部管内 ■

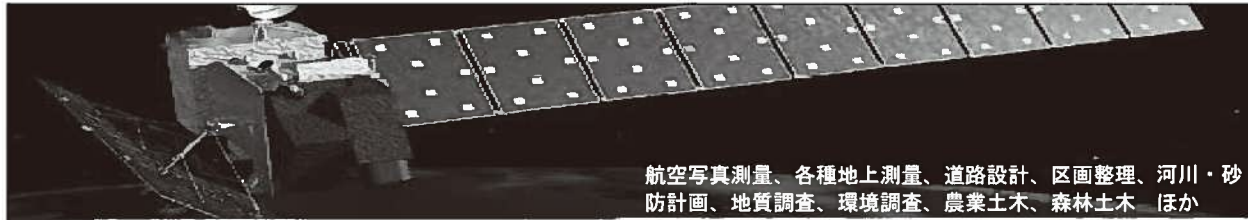
大河原町

・ 齋 清志 → 伊勢 敏(いせ さとし) 就任【H24.10.28】

■ 仙台支部管内 ■

仙台市大倉川土地改良区

・ 安達 雄一 → 菅澤 信弘(すがさわ のぶひろ) 就任【H24.9.21】



航空写真測量、各種地上測量、道路設計、区画整理、河川・砂防計画、地質調査、環境調査、農業土木、森林土木 ほか

**アジア航測株式会社**

仙台市青葉区一番町 1-4-28 小松物産ビル 4F  
TEL : 022-216-3553 / FAX : 022-216-3573

### なっとく年金 東京海上日動の

〈個人型確定拠出年金/個人型401k〉

※「なっとく年金」は東京海上日動の個人型確定拠出年金(401k)のペットネームです。

☎ 401kに関するお問い合わせ・ご相談は なっとく 401k 受付時間/平日 午前9時～午後8時 (祝日・振替休日・年末年始は) 土日 午前9時～午後5時 (お休みさせていただきます。)

☎ **0120-719-401** <http://401k.tokiomarine-nichido.co.jp/>

※確定拠出年金制度へのご加入や401k商品の運用指図にあたっては、必ず運営管理機関が提供する資料等をよくお読みの上、慎重にご判断ください。

東京海上日動火災保険株式会社 仙台支店 古川支社 宮城県大崎市古川駅前大通4-3-1 〒989-6162 TEL:0229-23-8931

オフィスにあるパソコンまわりの「ちょっと助けて！」に **ITあんしんサービスパックⅡ**

システム管理者のいないオフィスでも、複数の拠点を運営・管理している企業でも、社員ひとりひとりの「ちょっと助けて」に応えます！

富士ゼロックス宮城株式会社  
仙台市青葉区五橋1-1-23 カメイ五橋ビル5F  
Tel 022-221-2131 (代表)

詳しくはWEBでご覧いただけます！  
[http://www.fujixerox.co.jp/solution/it\\_safety/](http://www.fujixerox.co.jp/solution/it_safety/)

弊社ヘルプデスクにお電話いただくことで、パソコンやネットワーク機器に関するトラブル切り分けを専用のサポートツールを使って遠隔からお手伝いします。

※拠点でも 遠隔拠点でも

## 株式会社同和建材

〒989-6124  
宮城県大崎市古川石森字天王山2-1  
電話 0229-24-2755  
FAX 0229-24-2756

- ☆ 農業用水資材販売
- ☆ 上水・下水道資材販売
- ☆ 暗渠排水資材販売
- ☆ 土木資材販売
- ☆ 各種2次製品販売

より良い農業環境を



東日本大震災により被災・避難された皆様へ心よりお見舞い申し上げます。

当社では災害支援活動の一環として、被害を受けられたお客様に無償にて製品(期限制限版)の貸出を行っております。

無償提供製品：BV FILE/Raster ver.7.5 + 土木オプション

申し込みは、当社ホームページへ <http://www.bigvan.co.jp/>

**土木オプション**

- ・SIMA データ
- ・SIMA-DM
- ・クロソイド
- ・土量計算
- ・座標一覧
- ・法面記号
- ・面積計算
- ・トラバース/逆トラバース

**株式会社 ビッグバン** 〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-12 NKビル9F tel 03-3851-2227 fax 03-3851-2228



## 第35回全国土地改良大会沖縄大会が開催される



【沖縄大会式典】



【主催者挨拶 全国水土里ネット野中会長】

去る11月21日(水)「水土里豊かな守禮の邦 美らさん真心 おきな和」をテーマに、「第35回全国土地改良大会沖縄大会」が沖縄県那覇市の「奥武山総合運動場武道館アリーナ棟」を会場に、全国水土里ネット・水土里ネット沖縄主催・農林水産省・沖縄県の後援で開催された。

大会当日は、関係者約2,500名が出席し、来賓には郡司彰農林水産大臣(代理：農林水産省農村振興局次長 林田 直樹)、仲井眞沖縄県知事、地元選出国會議員を迎え、水土里ネット沖縄の仲間副会長の開会宣言並びに水土里ネット沖縄の古謝会長の挨拶で式典が始まった。

式典では主催者を代表して、野中広務全国水土里ネット会長より挨拶を頂き、仲井眞沖縄県知事から歓迎の言葉など開催にあたってのお礼等が述べられた。さらに来賓の郡司彰農林水産大臣(代理：農林水産省農村振興局次長 林田 直樹)より祝辞を頂き、その後土地改良事業功績者表彰式が行われ、本県からは本会理事の河南矢本土改良区佐藤勝也理事長が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞した。

続いて、農林水産省農村振興局林田次長より「新たな土地改良長期計画の概要」並びに「7つの政策目標と今後の展開方向」について基調講演が行われた。

その後「東日本大震災被災地域からの報告」が行われ、被災3県(岩手県・宮城県・福島県)を代表して、水土里ネットみやぎ伊藤康志会長が挨拶を行い、本県からは巨理土地改良区三品幸徳理事長が被災地域の復旧・復興状況について説明を行った。



【水土里ネットみやぎ伊藤会長のあいさつ】



【水土里ネット巨理 三品理事長から被災地の報告】



本県からは、伊藤会長を始め宮城県・土地改良区・水土里ネットみやぎ総勢44名が参加した。沖縄大会会場には「東北・震災復興パネル展」のブースが設置され、震災の復旧・復興に関するチラシの配布も実施した。



【記念写真・式典会場前】



【全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞】  
河南欠本土地改良区佐藤理事長

～事業視察～

11月22日～23日の両日、宮古島の事業視察を行い、水土里ネット沖縄の案内により仲原地下ダムや西原地区（特定地域復興生産基盤整備事業）を視察した。沖縄大会期間中は天候に恵まれ、無事大会の一切を終了した。第36回全国土地改良大会の開催地は北海道となった。



【事業視察宮古島コース】仲原地下ダム資料館



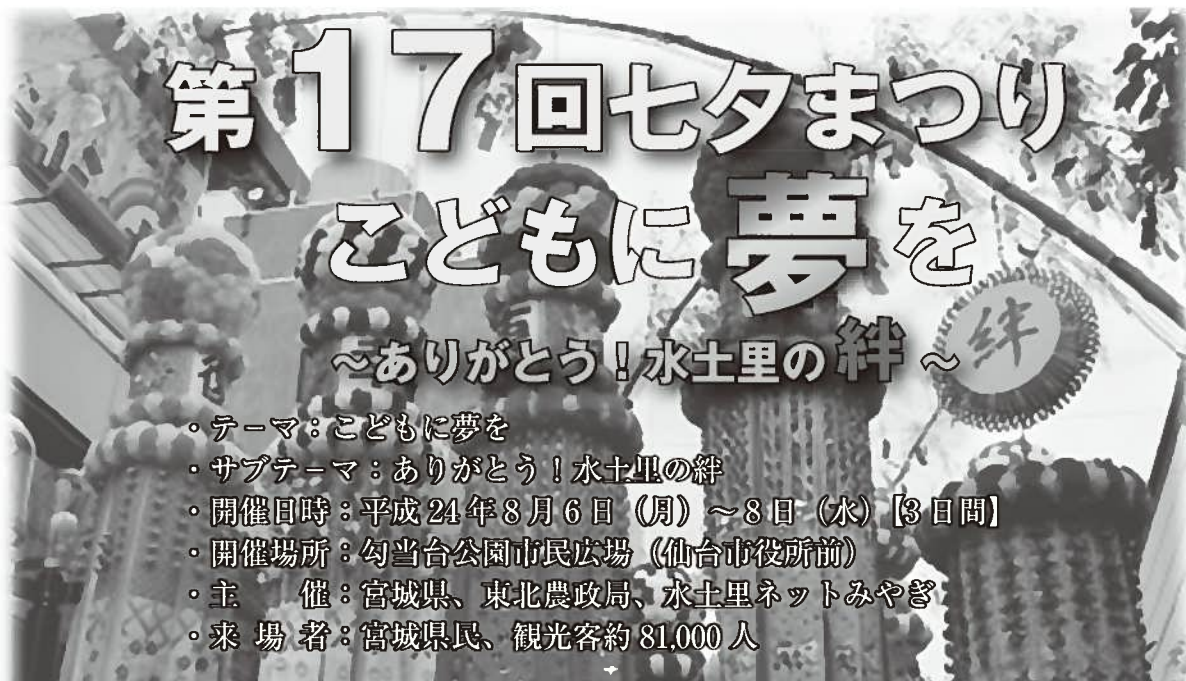
【事業視察宮古島コース】東平安名崎



【事業視察宮古島コース】西原地区



【事業視察宮古島コース】池間大橋



- ・テーマ：子どもに夢を
- ・サブテーマ：ありがとう！水土里の絆
- ・開催日時：平成24年8月6日（月）～8日（水）【3日間】
- ・開催場所：勾当台公園市民広場（仙台市役所前）
- ・主催：宮城県、東北農政局、水土里ネットみやぎ
- ・来場者：宮城県民、観光客約81,000人

去る8月6日～8日の3日間にわたり、仙台市勾当台公園において「第17回仙台七夕まつり」子どもに夢を”を開催し、平成8年度から今年度で17回目となった。今年は、東日本大震災からの復旧・復興に向けて、全国の皆様から多くの支援をいただいた感謝の意をこめて「ありがとう！水土里の絆」をサブテーマとし、東日本大震災からの復旧・復興状況を中心に、宮城県・東北農政局・水土里ネットみやぎの各ブースごとに、パネル展示などを行った。

毎年恒例となっている「ザリガニ釣り体験コーナー」には、たくさん子どもたちが絶えず来場し大盛況となった。記念写真用のバックパネルを作成し、ザリガニといっしょに七夕まつりの思い出を写真撮影し好評を博した。また、今回は新たに「小水力発電コーナー」を設け、実際にデモ機を使い小さな水のチカラで発電する仕組みについて子どもたちに学んでもらった。

七夕まつり期間中は晴天に恵まれたが、途中雷雨に見舞われることもあったが、多くの方々に来場していただき、震災から復旧・復興している状況について認識して頂いた。

今後も一日も早い復旧・復興に向けて、より一層尽力していかなければならないと実感した。



【小水力発電体験デモ機】



【上のタンクから水を流して発電している様子】



【被災地にもどってきた生き物たちのパネル展示】



【大盛況だったザリガニ釣り体験コーナー】

# ISO9001 : 2008 更新審査



【トップマネジメントインタビュー(本会 4F 役員室)】

去る8月23日～ 24日の2日間にわたり、認証機関である(財)日本品質保証機構(JQA)により、ISO9001:2008規格に基づく、品質マネジメントシステムの継続的な適合性及び有効性、並びに認証の範囲に対する適切性について更新審査が実施された。審査は2つのチームにわかれ、本部(チーム1)及び古川事業所(チーム2)で行われた。

平成15年2月に取得以来9年が経過し、これまで2回の更新を経て今回の審査で通算16回目となり、本会プロセスであるQMS、契約、内部監査、換地、調査・監理、教育・訓練、購買の各プロセスについて審査をうけた。

その結果、今回の更新審査では適用規格(ISO9001:2008)の中で改善指摘事項はなく、登録されている品質マネジメントシステムについては継続して有効であると判定された。

なお、今回の更新審査は平成24年2月に実施される予定であったが、東日本大震災の影響により延期されたものである。



【現地確認の様子(前川地区)】



【調査・監理プロセス(古川事業所)】

## 測定の新時代!

モバイル・マッピング・システム

## MMSでコストダウンと作業効率を向上

土地改良事業の基盤地図データの作成から、農道台帳、用排水施設アセットマネジメント、田面高の調査など道路を走行するだけで必要な空間情報(3次元情報)を取得し、短工期で高精度なデータをお客様に提供します。



株式会社パスコ 〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡2-2-11 問合せ: 022-299-9522

**PASCO**  
World's Leading Geospatial Group

# 土地改良区めぐり

はしかみおおや  
階上大谷土地改良区（気仙沼市）

シリーズ  
10

## 土地改良区の概要

本土地改良区は、気仙沼市の階上地区の南部と大谷地区の北部の海岸線に沿った丘陵地帯に展開する約186haの水田地帯である。

耕地は、県内でも稀な未整理地帯であり地区内の排水は全て自然排水で、一部を除き山越し排水を行い、水路は用排水兼用の土水路であるため維持管理と汎用化に著しく支障を来してきた。

また、農道についても幅員が極端に狭い屈曲した砂利道がまばらに走っている程度で、殆どの区画は道路に接しておらず農業経営を著しく阻害していた。

現在、県営ほ場整備事業も完了し農業生産の向上はもとより、農業経営の合理化と安定が図られている。

しかし、平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」により農地と揚水機場、ため池、用排水路等が被災し、現在も復旧に向けて工事中である。



位置図

階上大谷土地改良区の概要	
所在地	気仙沼市長磯原ノ沢11番1
設立年月日	昭和60年8月22日
関係市町名	気仙沼市
受益面積	171ha
組合員数	381人
役員数	理事10人 監事2人 職員2人



【復旧工事中の被災農地】

## 組織の沿革

昭和57年3月県営ほ場整備事業採択に向け気仙沼市、本吉町、階上農業協同組合、大谷農業協同組合及び地権者からなる階上大谷地区県営ほ場整備事業推進協議会が設立され、土地改良区の設立準備と並行し地区説明会等を繰り返し開催し、昭和60年3月、土地改良区設立と土地改良事業の施行申請を行う段階に至り、同年8月22日階上大谷土地改良区が認可され現在に至っている。

### 東日本大震災からの復旧・復興

震災により農地約74ha、揚水機場7ヵ所、ため池6ヵ所、用排水路等その他の施設が被災した。

被災農地の内、20haは平成25年度までガレキ仮置き場に貸与し、その後の復旧となる。残る約54haの復旧は、宮城県が実施主体となり工事を進めているが、平成24年度に作付けできたのは約16haで、残る農地38haと揚水機場、ため池、用排水路等は平成24年度中に工事完了し、平成25年度作付け可能となる予定である。

しかし、ガレキ仮置き場になっている農地は、ガレキ処理施設が未稼働で、処理が進んでおらず、復旧工事が開始されても、地盤沈下の解消や河川堤防建設に係る農地の提供等の問題もあり、平成26年度作付け可能となるかは未定である。



【復旧工事完了のため池】



【被災農地に新設されたいちごハウス】



【地区内に新設されたJAの乾燥施設】



【ガレキ仮置き場の被災農地】

**株式会社 ヤシマ測器店**

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目 6-27  
TEL(022)222-4829 FAX222-4839

## 事業(制度)紹介

# 非補助農業基盤整備資金のご案内

### ■非補助農業基盤整備資金とは

非補助農業基盤整備資金は、土地改良区等が国からの補助を受けないで、かんがい排水やほ場整備、施設の補修・更新などの事業に取組み、農業生産基盤の保全管理・整備の推進を図る場合、日本政策金融公庫等が農家負担の軽減を目的に、土地改良区等に対し長期・低利で融資する資金です。なお、農業集落排水など農村生活環境の整備や国の補助対象ではない県又は市町村単独による補助事業についても、融資の対象となります。

### ■融資の条件について

#### ■貸付対象者

- 土地改良区
- 土地改良区連合(事業主体となる場合に限る。)
- 農業協同組合
- 農業協同組合連合会
- 農業を営む方
- 農業振興法人
- 5割法人・団体(農業集落排水事業の実施に限る。)

#### ■貸付利率

貸付利率については、日本政策金融公庫ホームページをご参照下さい

<http://www.jfc.go.jp/a/finance/rate.html>

#### ■償還期限

最長25年(据置期間10年以内を含む。)になっており、事業内容に応じて設定出来ます。

#### ■償還方法

元利均等償還、元金均等償還のいずれかを選択出来ます。

#### ■貸付限度額

複数年にわたる事業の場合、各年度とも土地改良区が当該年度に負担する額までとなっています。

(ただし、融資1件当たりの最低額は50万円となっています。)

なお、農業集落排水事業では、一部施設ごとに限度額を設定しています。

詳しくは後述農業集落排水事業の項目を参照して下さい。

### ■融資対象事業

以下のように幅広い事業について、融資対象としています。

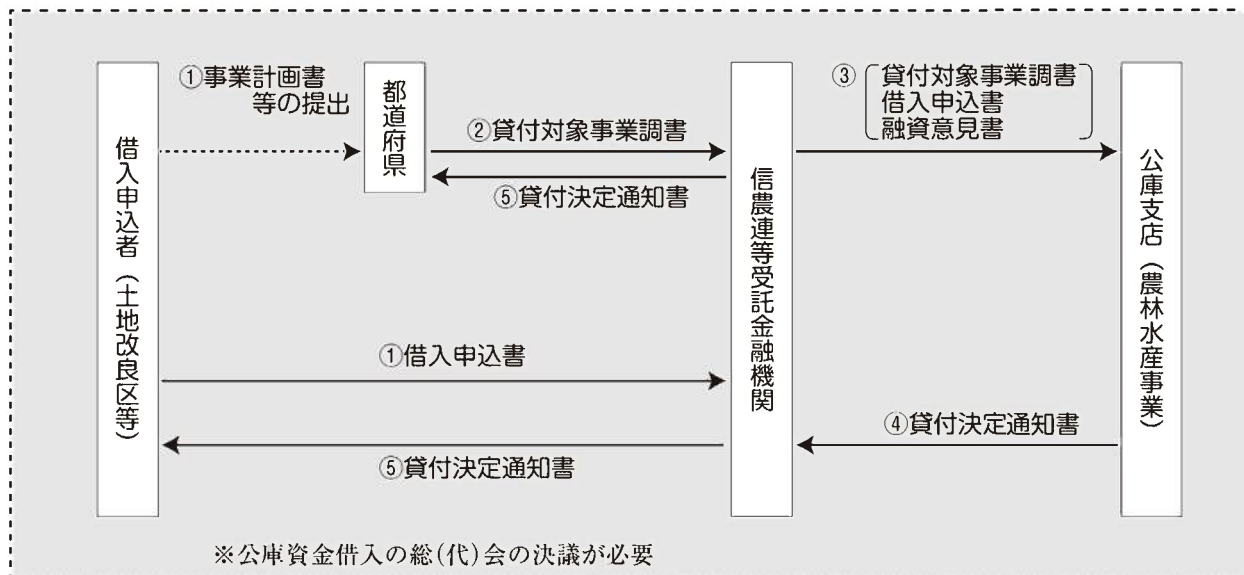
事業種類	事業内容
かんがい排水	・頭首工(井堰)、ため池、農業用排水施設、水路、温水施設等(併せ行う安全施設等の設置を含む)の新設・改良。しゅんせつ船等の取得
畑地かんがい	・畑地かんがい施設(スプリンクラーの立ち上がり、ヘッドを含む)の新設・改良
ほ場整備	・区画整理、かんがい排水施設、客土、暗渠排水、農道等の工種を総合的に実施する事業
暗渠排水	・完全暗渠(土管の埋設)、簡易暗渠(朶木、竹、木材、石れきの埋設)、弾丸暗渠(地下穿孔機を牽引する方法)等の新設
客土	・搬入客土、流水客土、ポンプ客土
農道	・農道(単独舗装や併せ行う安全施設等の設置を含む)の新設・改良、農道橋の新設・改良
索道	・空中ケーブルの新設・改良。軌条(モノラック)の新設・改良
畦畔整備	・コンクリート、ブロック、石積畦畔
石れき除去	・耕作に支障となる石れきを除去する事業
農地造成	・畑(普通畑、樹園地〔地目変換の事業を含む〕)、田(わさび田等を含む)の造成
農地保全	・シラス等特殊土壌対策、急傾斜地帯対策、水質障害対策等の事業
防災	・老朽ため池整備、地盤沈下対策、たん水防除等の事業
維持管理	・土地改良施設の補修、更新、しゅんせつ等の事業(水路の補修、土水路のコンクリート装甲、フリューム設置、水路や農道の安全施設設置、用排水施設のオーバーホール・塗装、維持管理に必要な建物・施設や機械の取得など)
農業集落排水	・補助事業に係る農業集落排水整備計画に定められた地域において、補助事業を補完して一体的に実施される事業
飲雑用水施設	・土地改良事業関係補助金交付要綱、中山間総合整備事業補助金交付要綱、農地開発事業補助金交付要綱、農村振興対策事業費補助金等交付要綱、農山漁村地域整備交付金実施要綱、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金実施要領、地域自主戦略交付金交付要綱に基づいて行うもの及び以上の各事業と一体の計画の下に行う末端支派線の工事に係るもの
牧野の改良・造成・保全	・草地の造成、改良等の事業で障害物除去、起土整地、土壌改良資材の投入、用排水施設の整備など
牧野利用施設整備	・牧道、隔障物、電気導入施設、家畜保護飼養施設(畜舎、看視舎)、飼料貯蔵施設(サイロ、乾草舎)、草地管理利用機械施設等の新設・取得・改良

※調査設計費も融資の対象となります。

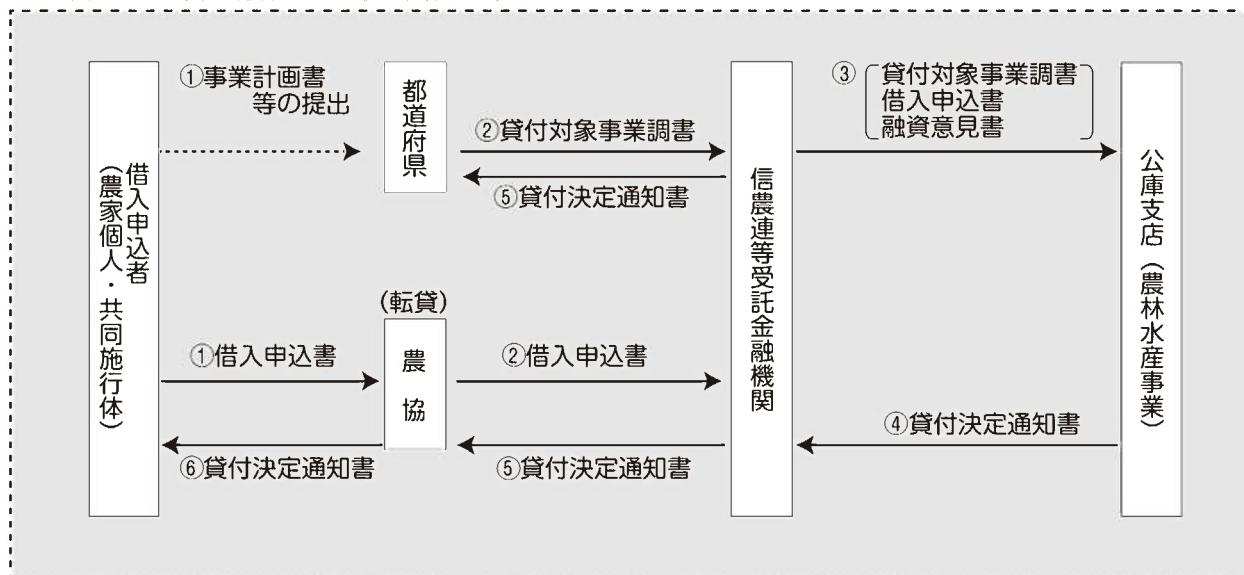
■借入申込みから貸付けに至るまでの流れ

非補助農業基盤整備資金の貸付けについては、原則として日本政策金融公庫等が都道府県信用農業協同組合連合会(信農連)など受託金融機関を通じて土地改良区等へ融資する委託貸付によるものとなっています。そのうち、農家個人や共同施行体が事業を行う場合は、通常、農協転貸による貸付けとなっています。委託貸付の場合、手続きは次のような流れとなります。

●土地改良区等による事業実施の場合



●農家個人・共同施行体による事業実施の場合



■非補助農業基盤整備資金の内容に関する問い合わせ先

宮城県土地改良事業団体連合会管理指導部管理班	☎022-263-5814
宮城県農林水産部農村振興課	☎022-211-2861
日本政策金融公庫仙台支店農林水産事業・農業食品課	☎022-211-2332
東北農政局農村計画部土地改良管理課	☎022-263-1111 (内線 4103)



今回は宮城県内502の活動組織の中から「上川名地区資源保全隊」の活動をご紹介します。

上川名地区では、平成19年度からスタートした「農地・水・環境保全事業」に取り組んできました。平成24年2月8日に、5年間の活動に対して、県内で取り組んだ活動組織517の中から優良組織が表彰されましたが、上川名地区保全隊が「宮城県農地・水・環境保全向上対策地域協議会長賞」を受賞しました。

平成18年度までは、町から委託を受け用排水路の江払いや江刈りを集落ぐるみで行っていました。農地・水・環境の良好な保全と地域の振興を図り、集落の活性化につなげようと全戸加入で「上川名地区資源保全隊」を組織し、事業に取り組んできました。スタートして2、3年は試行錯誤しながらの事業展開でしたが、地域の人たちが集まる機会が増え、飲む機会も多くなったことから、上川名地区を柴田町で一番美しいムラにしようという機運が高まってきました。また、ノミネーションをとおして地域を活性化しようと、ホタル鑑賞会開催や地活性化推進組合の設立、農村レストランの開店につながりました。

少子高齢化や担い手の高齢化により集落の共同作業等が困難になり、水田等の農地を担う人が少なくなっていますが、24年度からスタートする2期対策の「農地・水保全管理支払交付金事業」にも取り組むことになりました。集落営農組織の立ち上げが大きな課題ですが、これまでの5年間と同じように、活動をとおして寄り合いが多くなり、集落ぐるみで集落の農業を考える5年間になればと期待しています。

## 活動紹介

### ◆基礎活動

用排水路、農道、ため池の草刈り、泥上げを実施



### ◆水路の管理

水路の修理及び勾配修正や法面の雑木伐採の実施



### ◆農村環境活動

田んぼの生き物調査、ホタル鑑賞会、農道路肩等に花の植栽を実施





# 連 合 会 白 誌

	開催日時	主催者名	行事名	開催場所
8月	2日	全国農集排推進(協)	全国農集排推進(協)役員会及び通常総会	東京都 全国町村会館
	2日	宮城県農村振興課	マラウイ国農業水利技術研修セミナー	本館大会議室
	6日~7日	東北・北海道土地連連絡(協)	事務主任者会議	青森県青森市
	6日~8日	局・県・本会	仙台七夕まつり	勾当台公園
	9日~10日	本会	農地災害復旧・復興事業各推進協議会情報交換会	大崎市鳴子
	20日	東北・北海道土地連連絡(協)	21世紀土地改良区創造運動大賞地方選考委員会	KKRホテル仙台
	23日~24日	本会	ISO 更新審査	本会
	29日	仙台市立南小泉小学校	地域環境と生き物調査	仙台市立南小泉小学校
	29日	亘理地区管理体制整備(協)	H24 亘理用水見学会	山元町・亘理町
	29日~30日	全土連	水土里情報システム改修業務連絡協議会	東京都台東区
9月	5日~7日	東北・北海道土地連連絡(協)	H24 第2回事務責任者会議	北海道斜里町
	7日	宮城県農集排事業推進(協)	H24 担当者研修会	本会古川事業所
	11日	亘理地区管理体制整備(協)	坂元川探検「生き物調査」	山元町坂元小学校
	12日~14日	東北農政局	H24 実践技術研修(ストックマネジメント(前期))	土地改良技術事務所
	13日	全国農村振興技術連盟	H24 農業農村整備計画セミナー[小水力発電に関するセミナー]	東京都 サイエンスホール
	13日	宮城県農林水産部	災害復旧事業研修会	本館5F大会議室
	13日~14日	宮城県農地集団化(協)	H24 先進地視察研修会	秋田県大仙市
	20日	全土連	都道府県土地連事務責任者会議	東京都 全国都市会館
	21日	全土連	全国ため池整備(協)総会	東京都 砂防会館別館3F
	26日	仙台市立南小泉小学校	南小泉小学校総合学習	仙台市若林区
10月	28日	鳴瀬川・志田郡桑折江土地改良区	鳴瀬川中流土地改良区統合整備研究会(仮称)設立総会	鳴瀬川土地改良区
	3日~5日	小午田農林高等学校	現場実習	大崎市
	4日	本会	第2回理事会	ホテルメトロポリタン仙台
	19日	疏水ネットワーク	H24 疏水ネットワーク通常総会及び疏水フォーラム	千葉県佐倉市
	20日	大崎土地改良区	第8回内川水土里の路ウォーク	大崎市
	23日	農集排新技術普及研究会	農集排新技術普及研究会北海道・東北ブロック研修会	秋田県パーティージャラリーイタカ
	28日	仙台市大倉土地改良区	第24回宮城地区まつり	青葉区宮城総合支所
	31日~1日	本会東部支部	東部支部会員研修会	新潟県
	1日~2日	本会仙台支部	会員代表者及び職員合同研修会	山形県寒河江市他
	1日~2日	大崎管内土地改良区職員会	第2回研修会	栃木県那須塩原市他
11月	2日	東北管区行政評価局	農業水利施設保全管理補助事業実施状況調査	本会4F役員室
	5日	全土連	H24 年度農業農村整備優良地区コンクール現地調査	美里東部土地改良区 他
	7日	宮城県	平成24年度宮城県中山間地域活性化研修会	仙台市広瀬文化センター
	8日	小午田農林高等学校	小午田農林現場実習報告会	小午田農林高
	8日~9日	仙台地区土地改良区事務責任者会議	現地視察研修	松島町他
	15日	農村工学研究所	農業・農村の地域再生に関する技術シンポジウム	東北大学川内萩ホール
	15日~16日	東北・北海道土地連連絡(協)	東北・北海道ブロック管理主任者会議	山形県天童市
	16日	全土連	土地改良施設の整備補修事例検討会	山形県天童市滝の湯ホテル
	16日	東北・北海道土地連連絡(協)	東北・北海道ブロック土地改良施設管理円滑化事業管理専門指導員会議	山形県天童市
	20日~23日	全土連・水土里ネット沖縄	第35回全国土地改良大会沖縄大会	沖縄県
12月	28日	農業農村工学学会	平成24年度技術者継続教育機構 東北地方委員会研修会	ホテル法華クラブ仙台
	29日~30日	東北・北海道土地連連絡(協)	東日本大震災からの再生・復興並びに平成25年度予算確保に向けた要請活動	農林水産省 他
	1日	白石市土地改良区	仙南地方の水源を護ろう!~水土里を守る想い~ 第5回植樹祭	白石市越河
	3日	宮城県北部地方振興事務所	平成24年度農地集積研修会	大崎合同庁舎1F大会議室
	5日	本会	土地改良区役員研修	仙台市太白区秋保
	11日	日本水土総合研究所	平成24年度農村の自然エネルギー活用に関するフォーラム in 仙台	TKPガーデンシティ
	11日	全土連	平成24年度21世紀土地改良区創造運動大賞中央選考委員会	砂防会館別館3F
	12日	仙台東地区ほ場整備事業推進(協)	第6回仙台東地区ほ場整備事業推進協議会	仙台市農業園芸センター
	12日	本会	土地改良区職員研修	大崎市鳴子
	13日	宮城県北部地方振興事務所	平成24年度農地集積研修会	大崎合同庁舎
13日	社団法人地域環境資源センター	平成24年度総合的な環境配慮技術講習会	ホテル青森	
14日	角田地区土地改良区統合整備推進(協)	角田地区土地改良区統合整備推進協議会	角田市役所	
20日~21日	本会	監事会、理事会	大崎市鳴子	

# 今 後 の 行 事 予 定

	開催日時	主催者名	行事名	開催場所
1月	17日	全土連	農業農村整備の集い(仮称)	東京都(砂防会館別館)
2月	下旬	本会	理事会	土地改良会館
	下旬	本会	ISO定期審査	土地改良会館
3月	下旬	本会	第54回通常総会	土地改良会館

宮城の中山間地域の四季、風景、暮らしを紹介し、この地域の良さを理解してもらえような写真を募集します。

# 作品募集



平成23年度最優秀賞 「黒つけまつり」

## みやぎの中山間地 写真コンクール



平成23年度優秀賞 「楽しいお花見給食」



平成23年度優秀賞 「夕焼けの里山」

**みやぎふれあいネット**  
宮城県中山間地域活性化推進協議会  
http://www.net-miyagi.org

みやぎふれあいネット

検索

■受付:平成24年9月1日～平成25年2月28日まで(当日消印有効)

■主催:宮城県中山間地域活性化推進協議会 ■後援:宮城県/ **水土里ネット みやぎ**

### 【平成24年度みやぎの中山間地写真コンクール応募要領】

■1. 趣旨・目的

中山間地域の四季、風景、暮らしを紹介し、この地域の存在の重要性をアピールし広く県民に認識してもらうことを目的に写真コンクールを実施します。

【中山間地域のイメージ】

山あいには田畑が広がり、そこに人家が点在する昔ながらの田園風景。里山に囲まれた、日本の原風景を思わせる農村・漁村。

■2. 題材

- ①中山間地域の風景、棚田等イメージにマッチしたもの (農村景観、祭り、郷土芸能、風物、年間行事、農作業、生活・暮らしなど)
- ②中山間地での農業農村体験等、活動を行っているもの

■3. 応募方法

- ①作品は宮城県内の中山間地域で撮影されたもの。
- ②サイズは、四つ切り(ワイド可)写真(カラー・モノクロ等)で、単写真に限ります。
- ③デジタルカメラで撮影した場合、編集していないものでA4サイズで応募ください。
- ④応募点数は1人1点までで、未発表の作品に限ります。
- ⑤応募作品については、応募票を作品裏面に添付して下さい。(応募票はチラシの裏面にございます。)
- ⑥応募票の記入事項は、氏名、住所、年齢、電話番号、題名、撮影年月日、撮影場所、応募作品に関する簡単なコメント等を明記してください。
- ⑦被写体が人物の場合は、肖像権侵害等の責任は負いません。また、応募に際しては必ず本人から承諾を得て下さい。
- ⑧入賞者には、事務局から通知します。
- ⑨入賞作品の著作権は、主催者側に帰属し入賞後に後日原版(オリジナル)を提出していただきます。
- ⑩応募作品は返却いたしません。(ただし、入賞以外の作品は返信切手同封のものに限り返却します。)

■4. 受付期間 平成24年9月1日～平成25年2月28日まで(当日消印有効)

■5. 作品送付先 〒980-0011 仙台市青葉区上杉2丁目2-8 宮城県中山間地域活性化推進協議会事務局  
水土里ネットみやぎ (宮城県土地改良事業団体連合会 総務企画部) TEL022-263-5812

■6. 審査 主催者の委嘱する審査員により審査を行います。

■7. 各賞 ・最優秀賞 1点(賞状、副賞) ・優秀賞 2点(賞状、副賞) ・佳作 数点(賞状、副賞)  
※入賞作品の活用方法は、ホームページで公表するほか、各種イベント等での展示、広報資料として広く活用します。

■8. 主催等 主催:宮城県中山間地域活性化推進協議会(14市町村で構成) 後援:宮城県/水土里ネットみやぎ



# かんきょう 環境カルタ

## を貸出し致します。

この『環境カルタ』は、森林の役割や森林と農業用水の関わり、地球温暖化防止について学ぶことができます。



『環境カルタ』を貸出し致しますので、イベント等で使用したい方は、下記に問合せ下さい。  
(申込みが多数の場合はご期待に添えないことがあります。)  
サイズについては(大・A4版サイズ)と(小・7cm×9cmサイズ)がございます。

### 【問合せ先】

**水土里ネットみやぎ**  
総務企画部企画広報班  
TEL 022-263-5812  
FAX 022-268-6390



GIS開発/データ作成/ファイリング  
**VELTEC**  
**株式会社ベルテック**

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4丁目4番3号  
 TEL 022-299-1231 FAX 022-299-1141

◆ 主な業務内容 ◆

- GIS支援業務 : 地理情報システム・開発・解析処理等
- データベース・ファイリング業務 : CAD入力・電子化ファイリング等
- 広告・デザイン・看板製作業務 : ポスター・のぼり・看板等
- 測量調査業務 : 航空写真測量・地上測量・農地現況調査等

\*一般社団法人 JASFA会員



日本SPR工法協会 東北支部

〒981-0954 仙台市青葉区川平1丁目5-30  
 電話 022-279-5683 (ファクシミリ兼用)

日本SPR工法協会

TEL 03-3234-8495(代)  
 ホームページ <http://www.spr.gr.jp/>



●発行 2013年1月1日

水と里ネットみやぎ (宮城県土地改良事業団体連合会)  
 〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目2番8号  
 Tel 022-263-5811 (代表) / Fax 022-268-6390  
<http://www.mlw.or.jp>

●印刷

株式会社 セント  
 〒981-0902 仙台市青葉区北根四丁目2番20号  
 Tel 022-301-5230 / Fax 022-718-6539

